

青少年のきずな

ページを
ご覧ください

編集・発行 久留米市子ども未来部 青少年育成課(久留米市野中町1074-1) TEL(0942)35-3806 FAX(0942)34-9001

(お知らせ)若者相談「みらくる」(中学卒業後～39歳の総合相談窓口)専用フリーダイヤル0120-369656 FAX(0942)34-9001

久留米市青少年弁論大会 自分の家族のこと、世の中に対する思いを伝える!!

《優勝》眞弓結衣さん(明善高)、古賀美陽さん(田主丸中)

令和5年度 久留米市青少年弁論大会弁士名簿(敬省略)

順番	氏名	学校	学年	演題
基準	築山 幸実	久留米	2女	多様な性を当たり前

(午前)高校生の部

1	草野 小春	久留米	2女	未来を決める
2	北島 志保	久留米信愛	1女	その先に見える景色
3	金丸 涼香	久留米学園	2女	私たちの存在とは
4	塚本 美帆	祐 誠	3女	私たちがつくる最高の「普通」
5	中尾翔太郎	南 筑	2男	今、考えていること
6	眞弓 結衣	明 善	3女	王子さまと魔法と

(午後)中学生の部

1	高橋 颯佑	城 島	3男	生きているから…
2	隈本由里子	附属久留米	3女	できないと言えない
3	中島 寧音	牟田山	3女	日常の中にある大切なもの
4	原口 志帆	北 野	3女	私の中の壁
5	村上 乃彩	良 山	3女	私の行動が誰かのためになる
6	落石 万緒	久留米信愛	3女	全員が輝ける社会へ
7	古賀 美陽	田主丸	3女	気づいたこと
8	牛嶋 史奈	荒 木	3女	なぜ女性が家事をするのか
9	田中 聖菜	江 南	3女	Live it while you can.
10	富山 恵	高牟礼	3女	人との関わりの楽しみ方
11	鍋田 明花	久聴覚特支	2女	聞こえていなくても
12	森 花姫晴	筑邦西	3女	続けることの大切さ
13	泉 結愛	三 瀨	3女	自分だけの輝き
14	砂川 小絵	城 南	3女	誰もが生きやすい社会
15	古賀 麻美	諏 訪	3女	あたたかい福祉の社会を目指して
16	吉田 颯汰	屏 水	3男	誰にとつての普通？
17	金子 澗音	明 星	3女	すべての人の幸せを目指して
18	福田 凧	青 陵	3女	私の嫌いな言葉
19	井 千夏	宮ノ陣	3女	人との関わりが私の「夢」に
20	藤井 優華	柳 原	2女	無音の世界は必ずしも不幸ではない

6月7日(水)、文化センター共同ホールにて久留米市青少年弁論大会が開催されました。高校生の部では、明善高等学校3年の眞弓結衣さん、中学生の部では田主丸中学校3年の古賀美陽さんが優勝しました。

平野審査委員長より講評があり、社会の難しい問題にも、自分の身の周りの出来事と結び付けて工夫されていたことを評価されました。また、弁論を行う上で大切なポイントや、弁士、聴衆へのメッセージをいただきました。

①題材の選定

自分が一番伝えたいこと(情動)を主張文として書き起こし、それを伝えるための題材、聞き手を導くための具体例を選び、起承転結がきちんとつながるように考える。

②自信を持つ

皆さんの主張は、自分の身の回り、世の中の幸せを目指して使われた言葉が集まっている。弁論を行うこと自体に価値があり、自信を持って欲しい。

③良い話し手は聞き手がつくる

弁論を通じて、友人、先生、保護者、地域の人など、周りの人のたくさんの支えがあることを再認識して欲しい。



▲高校生の弁士

主催:久留米保護区保護司会、久留米市青少年育成市民会議

共催:久留米市校区青少年育成協議会連絡会議、久留米市、久留米市教育委員会、久留米市中学校文化連盟

後援:西日本新聞社

協賛:国際ソロプチミスト久留米、久留米更生保護女性会

1回覧ください

《入賞者》 高校生の部

【優勝】

明善高等学校……………3年・眞弓 結衣

【準優勝】

祐誠高等学校……………3年・塚本 美帆

《入賞者》 中校生の部

【優勝】

田主丸中学校……………3年・古賀 美陽

【準優勝】

城島中学校……………3年・高橋 颯佑



▲中学生の弁士

《審査員特別賞》

附属久留米中学校……………3年・隈本由里子

久留米聴覚特別支援学校中学部……………2年・鍋田 明花

櫛原中学校……………2年・藤井 優華

◆優勝者の弁論の要旨(抜粋)です

高校生の部 優勝

「王子さまと魔法と」

明善高等学校 3年 眞弓 結衣



幼い頃、ある本に出てきた王子様が教えてくれたんです。「一番大切なことは目に見えない」。母が生まれ育った家には、おばあちゃんとひいおばあちゃんが住んでいました。しかし、もう長く会っていません。中学2年生の冬に起こった世界的パンデミック。新型ウイルスはあらゆる面で私達を苦しめました。マスクの着用、部活動の中止、行事の縮小化、休校分散登校。当たり前のように会っていた人たちに会えなくなりました。そして、その期間は長すぎました。その間にひいおばあちゃんは体調を崩して入院してしまいました。私には会えない時間が長くなるほど、不安になる理由があります。

次に会った時、私のことを知らないかもしれません。アルツハイマー型認知症。最後に会った時、記憶はすでに消えかけていました。昔の大家族の人数分のご飯を炊こうとします。お風呂は薪と火で沸かすものだと思っています。「違う」「そうじゃない」「それせんでいいよ」自分の行動を否定されても笑ってました。それでも忘れるんです。ひいおばあちゃんと留守番をしていた時、お風呂を沸かす準備をするんです。薪を集めに。「お風呂はそこにあるボタン押したら沸くけん外に行かんでいいよ」10分後にはまた立ち上がります。外が暗くなるにつれて、立ち上がるペースが速くなります。これを繰り返

し、私の中でプツンと音がしました。「ねえ!行かんでいいって言いよるやん!何回も言わせんでよ!」一瞬驚いたような悲しいような表情をして座りました。言葉を吐き散らかした後に残ったのはひいおばあちゃんを傷つけたという事実とあの一瞬の表情、そして「どうせ忘れるし」なんて思っけきつい言葉を吐いた汚い自分だけでした。

いまだにひいおばあちゃんには会っていません。もしかしたら次会った時に私のことを知らなく名前を呼んでくれないかもしれない。記憶がなくなっていたとしても私はあの日のことを必ず後悔します。一度放った言葉は取り消すことが出来ません。だから謝りたい。もう一度、ひいおばあちゃんと笑顔で話せるように。

私はあの時、言葉によってひいおばあちゃんを苦しめてしまった。しかし、一方で言葉には人を救う力もあります。使い方次第で一瞬にして効果が変わってしまう「魔法」です。私達はそれを忘れかけています。隣にいる人が明日もそこにいるとは限らない。会いたい人に会いたいときに会えるとは限らない。あなたの目には今、何が映っていますか。ゲームの世界ですか。スマホの画面ですか。違う。そんなところに答えはありません。あなたが今、見なくてはいけないのは人の心です。

ある星の王子さまは言いました。「とても簡単なことだ。物事はね、心で見なくてはよく見えない。一番大切なことは目に見えない」あなたは見るべきものが見えていますか。言葉という魔法を誰かのために使えていますか。

中学生の部 優勝

「気づいたこと」

田主丸中学校 3年 古賀 美陽



あなたは「運動することが嫌だな、別にしなくてもいいな」と思ったことはありますか。

中学一年の一学期、心臓の検査がありました。私はすぐ終わるだろうと思っていました。ところが、なかなか検査は終わらず、拳句の果てに精密検査に行ってくださいと言われたのです。そして医師からつけられた言葉は心臓の病気です。その日からこれまでやってきた運動ができない毎日から始まりました。私は正直なんとかなると楽観的に考えていました。ところが、時間がたつにつれ、少し走ることもだめ、ジャンプすることもダメ、今まで当たり前に行っていたことが全てできなくなって自分でも何が良くて何がだめなのかわからなくなってしまいました。見えない何かに縛られているような感覚でした。中学校入学と同時に始めたバスケットボールもできなくなりました。入部して数か月一生懸命取り組んでいたのも辛かったです。皆が練習している横で私はただぼーっと座って見ただけでした。一生このまま運動できずみんなを眺めることしかできないのかと、とても悔しい悲しい気持ちになりました。家族は「つらい思いをするなら部活をやめてもいいんだよ」と言ってくれました。でも私はそれは絶対に嫌だとバスケ部の皆のために何かできることはないかとたくさん考えました。そしてバスケ部のマネージャーを思いつきました。バスケ部の皆はマネージャーの私を受け入れてくれました。それからスコアシートの書き方を覚えたり道具の準備をしたり、メン

バー登録をしたり、大変なこともありましたが、ただ座っていた頃より楽しかったし何よりやりがいを感じる事ができました。しばらくたって、医師から無理をしなれば運動しても良いと言われました。三学期に久しぶりに体育の授業に参加しました。授業は小学生の頃苦手だったマット運動に初めは少し緊張していましたが皆と運動していると病気のことも忘れるくらい楽しんでいました。マットの上をゴロゴロ転がりながらみんなで笑って運動できたことがとても嬉しかったです。私はこの日のことが今でも忘れられません。最初はこの話をしてみんなに病気のことを知られることがとても怖いと思っていました。でも私が病気になって気づいたことや力になってくれた人達への感謝の気持ちを言葉で伝えたいと思いました。そしてチャレンジすることをためらってしまう怖がりな自分を乗り越えるチャンスでもあると思い今ここでこうして話しています。私は当たり前なのが急に当たり前ではなくなった数ヶ月を経験しました。失って初めて大切さがわかるとよく言われます。本当にそうでした。学校に行ける、体育の授業や部活にも参加できる日々がどれだけ幸せなことなのか実感しています。そして病気のことを知っているような相談に乗ってくださった先生方や病気と分かっても何も変わらずに接してくれた友達、何より一番近くで力になって応援してくれた家族のおかげで私は今不安なく生きているんだと気づくことができました。みなさんに伝えたいのは当たり前なんてないということ。人のために行動することが喜びや自分のやりがいになるということ。今の幸せをしっかり感じて過ごして欲しいということです。私もこの経験で気づいたことを大切に、感謝の気持ちを忘れず、新しいことに挑戦して行きたいと思っています。

令和5年度 久留米市少年育成指導員委嘱式・研修会

5月19日(金)えーるピア久留米の視聴覚ホールにて、「久留米市少年育成指導員委嘱式及び研修会」を開催し、地域で活動されている多くの少年育成指導員の皆様に出席いただきました。委嘱式については4年ぶりの開催になりました。

少年育成指導員とは、青少年の健全育成や、非行の未然防止などに関して2年任期で活動いただいている市民の皆様です。

今年度は新任45名を含む248名が4月1日付けで委嘱されました。

今回の研修会は、「地域の子どものを、地域で育てるために、今私たちにできること～昨今の子どもを取り巻く課題

とその対応について～」と題して、高田悦也氏に講演いただきました。子どもを取り巻く環境が変化し、新たな課題への対応が必要になる中で、大変参考になるお話を聞くことができました。

少年育成指導員の皆様には、これからも地域全体で子どもを見守り、子どもたちのよき理解者、相談相手としてご協力いただきますようお願いいたします。



ネット講話

久留米市では、インターネットを利用した非行・被害防止のため、保護者向けの講話を行っています。

お気軽にお問い合わせください。

久留米市イメージキャラクター

くるっぱ

『ネット講話』は少人数でも開催できるっぱ！！
ご連絡お待ちしてるっぱ♪

ネット講話の申込は青少年育成課まで

(電話) 0942-35-3806
(FAX) 0942-34-9001
(Eメール) syounen@city.kurume.lg.jp

若者育成支援講演会

今、若者に必要なこと

【講演①】将来を自分流で考える

講師：中村 路子 氏
(一般社団法人 umau 副代表)

【講演②】居場所のない青少年の声からみえる 今、若者に必要なこと

講師：大西 良 氏
(筑紫女学園大学准教授/保健福祉学博士)

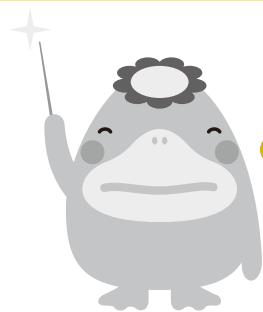
- ◆日時：令和5年8月25日(金)
18時30分～20時(受付18時～)
- ◆場所：えーるピア 1階 視聴覚ホール
(久留米市諏訪野町 1830-6)
- ◆定員：200人(事前申込・先着順)
- ◆参加費：無料
- ◆申込み：電子申請、電話、FAX等による事前申込み。
- ◆問合せ：子ども未来部 青少年育成課 48-1681



申し込みフォームは
こちらから

ゆい 『結らいん』 あなたのこまったことや

なやんでいることを聞かせてください。



結らいんではこんなことができます！
話を聞いて、いっしょに考えます。
直接会って話をすることもできます。

友達ケンカした、トラブルになった。
自分自身の悩み。将来への不安。
誰にも相談できないことがある。
家族や家のことできつい時がある。等
様々な相談を受け付けています。

中学・高校生や18歳までの皆さんからの
ご連絡をお待ちしています！

結(ゆい)らいん相談窓口

場所：子ども未来部 こども子育てサポートセンター (城南町15番地3 16階)
電話：0120-870-552 はなそおここに 無料 メール：youiline@city.kurume.lg.jp
対応日時：平日(祝祭日、年始年末を除く)
8時30分～17時15分(木曜日は19時まで)